■戦略的情報システム構築から情報武装化へ

　情報の重要性は古くから訴えられており、今さら説くことではないでしょう。ビジネス上の課題もその解決策も、事業拡大のヒントもお客様のニーズも、多くは社内の情報から見つけ出すことができます。

　この情報の重要性に着目し、戦略的情報システムが構築されたのは1980年代のことです。しかし、まだこのころの情報は一部管理部門や経営層の閲覧に限られ、主に意志決定に活用されていました。

　この閉ざされた情報がオープン化され、一般社員の情報武装化が進んだのは、パソコンとネットワークの普及した1990年代の後半のことです。営業や企画の最前線にいる社員が、基幹システムの情報をパソコンにダウンロードし、自在に集計・分析。情報の価値を一気に高めることができるようになりました。

■漏洩による情報のリスク化

　情報のオープン化とともに、共有が進み、分散されることになります。これが情報の価値を高める反面、漏洩のリスクが注目されていくことになります。

　たとえば、企業の機密情報の漏洩。悪意のある人間によって、新製品情報や経営情報などが盗み見られる危険性が現れました。

　さらに、企業の大きなリスクとなったのが個人情報の漏洩です。個人情報が流出すると、賠償や訴訟問題にまで発展。ブランドイメージや信頼性を大きく損ない、企業の存続さえ危うくします。

　2000年代初頭には著名な企業が顧客情報を漏洩し、メディアを賑わしました。そして迎えたのが、2005年の個人情報保護法の全面施行です。個人情報を持つ企業は、その保護を社会的責務であると改めて認識しました。

　これを背景に、にわかにクローズアップされたのが「データ消去」です。情報セキュリティにおける課題の1つとなり、HDDデータを消去するサービスやフリーソフトが現れるようになりました。